

バイオマス燃料の荷役機械 愛知海運、蒲郡港に導入

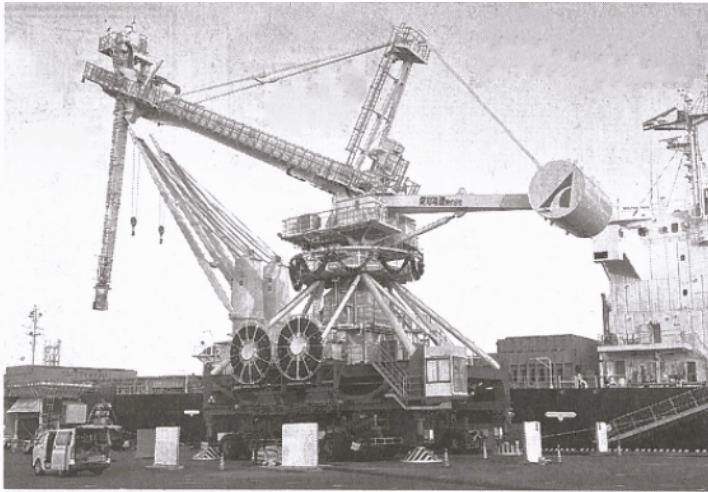
総合物流業の愛知海運（本社名古屋港区）は、蒲郡港（蒲郡市）にバイオマス燃料の荷役機械を導入した。木質ペレットなどを船舶から陸地へ荷揚げする。ペレットをスクリューで筒の中へ巻き上げるため、周辺への粉じんの飛散を防ぐことができる。投資額は約15億円。同機械の導入は中部地方では初めて。中部電力などが出資する「愛知蒲郡バイオマス発電所」（蒲郡市）へ、年間23万トンの木質ペレットなどを供給する際に活用する。（野田哲彦）

15億円投資 木材の粉じん飛散防ぐ

11月上旬に荷役機械「スクリューアンローダー」をい」と狙いを語る。荷揚げした燃料は、蒲郡市浜町工業団地内の愛知蒲郡バイオマス発電所へ供給する。8月から稼働しており、想定年間発電電力量は約3・4億キロワット時で、一般家庭約11万世帯分に相当する。発電出力を誇る「田原バイオマス発電所」の稼働が予定されている。将来的に木質バイオマス燃料の需給は逼迫（ひっぱ）する可能性が高く、輸入量の拡大など調達面の対応が課題となる。

通常のペレットやPKSの荷揚げは船舶内のクレーンを用いる。ただ、燃料をつかむ際に木材のちり、ほこりなどの粉じんが発生するため、飛散して環境問題となる可能性があった。愛知海運の栗津広雪取締役は「環境に優しいエネルギーの輸送であっても、別の場所での迷惑をかけていては本場のSDGs（持続可

2025年をピークに全国で木質バイオマス発電所の建設ラッシュが続く。愛知県内では25年9月に、田原市で国内最大級の



中部地方での導入は初となる荷役機械「スクリューアンローダー」